

いのちの言の葉2010

富山県教育委員会 平成22年度いのちの教育総合支援事業

「ともに生きる」(総合的な学習の時間)

射水市立大門小学校6学年児童
平成22年12月3日実施

【いのちの先生】


松下 真由美先生
・スクールサポーター

【授業の概要】


- 1 「いのちの先生」の紹介
- 2 「いのちの先生」の話
- 3 児童からの質問
- 4 感想記入

平成4年に「あらちゃん」を授かるが、生まれつき重度重複障害児であった。いのちの先生が「あらちゃん」とともに生きた13年間を、写真や当時使っていたものを見せながら話していただいたので理解しやすかった。児童は、13年間を懸命に生きた「あらちゃん」に感動しながら、それを支えた母の強さに聞き入っていた。そして、いのちがいかにかげがえのないものなのかを感じ取っていた。

家族へ

今日、いのちの先生のお話を聞いて、私たちの存在は、お母さんやお父さんにとってかけがえのない存在だということや、私が生まれてきたことは当り前のことではなく、奇跡のようなことだということを知りました。これから、この大事ないのちを大切に守っていき

たいです。

お母さんの宝物 ○○へ

今ここで生きて、学校に行けて友だちとすごせることが、どれだけ幸せで、かけがえのないことであるかということを忘れないでほしいと思います。生きたくても生きられなかった人が、この世にはたくさんいます。悲しかったり

つらかったりする日もあるかもしれませんが、いつもお母さんはあなたを応援していますよ。

家族へ

ぼくはいのちの先生のお話を聞いて、障害があっても一生懸命に生きている人がこの世にたくさんいることや、いのちがどれほど大切なものであるかを、改めて教わりました。仲のよい友だちと話をしたり、笑っていたりすることも当たり前なことではなく、奇跡的なことなのだと分かりました。

イラスト「心のノート」より



〇〇へ

健康な体で生まれてきた私の方が、多くのことを当たり前と思って、いのちの大切さを忘れがちになっていますね。

重い障害があっても、それに打ち勝つ強い心をもって生きている方がいます。私たちも見習わなければいけないとママも思います。

イラスト「心のノート」より



お母さんへ

ぼくは、今日いのちの先生のお話を聞いて、いのちをずっと大切にしていこうと思いました。

ぼくが今まで当たり前にしてきたことが、だれにでも当たり前に行けるとは限らないことを知りました。「あらちゃん」のお話を聞いて、いのちの大切さが分かりました。

イラスト「心のノート」より



〇〇へ

あなたをお腹に授かったとき、その小ささにびっくりしました。でも、お腹の中で動いていたんだよ。お腹の中でアッという間に大きくなっていく〇〇が愛しくて、心配で、大事で大切に…。今もずっとその気持ちは続いているよ。これからも大事な大事な〇〇のいのちをずっと守っていきたいと思います。

イラスト「心のノート」より

